

る肝切除に比べ、入院期間を半分以下に短縮でき、予後はいずれも良好です。そして最終手段となるのが肝移植です。「ミラノ基準」(五センチ以下の腫瘍が一個、または三センチ以下の腫瘍が三個以下)と呼ばれる条件を満たせば、手術に保険が適用されます。熊大病院では、昨年肝移植が三〇〇例を超え、そのうち四十三例が肝がん患者への移植で、脳死肝移植も二例ありました。最近治療効果が期待できる新薬も多数開発され、これまで手術できなかった患者さんも化学療法や放射線療法などを組み合わせた集学的治療の導入で、最終的に手術が可能となり、長期の生存が期待されます。

講演の六人目は、熊本大学大学院生命科学研究所消化器外科分科野診療講師の林尚子先生から「がんの薬物療法」と題してご講演をいただきました。内容の概要は次のとおりです。

化学療法は全身的ながん治療に用いられ、集学的治療の中でも特に重要な役割を果たしています。手術ができない進行がんに対し、抗がん剤やホルモン剤などを投与する「化学療法」、手術後の再発を予防するための「術後補助化学療法」、大きながんを化学療法で小さくした後に切除する「術前補助化学療法」などさまざまなものがあります。抗がん剤には多くの種類がありますが、そして最も注目されているのが、「分子標的治療薬」であり、これはがん細胞だけを攻撃し、正常細胞にはダメージを与えないとされています。抗がん剤の投与方法は、静脈からの投与のほか、動脈や胸腔、腹腔、髄腔の中に投与する方法があります。最近経口薬も登場していますが、服用の仕方

や保管方法を誤ると重い副作用が出てしまうことがあるので注意が必要です。抗がん剤の多くは正常な細胞も損傷させてしまう作用があるため、副作用の問題がついて回ります。最も苦痛なのは嘔吐や吐き気ですが、最近新しい制吐剤が開発され、以前より悩みが改善されてきました。化学療法は、基本的に臓器の機能が保たれ、全身状態の良い人に行われます。そのうえで、インフォームドコンセント(十分な説明と同意)がなされていることが前提であります。そして化学療法を行う際には、副作用や痛みを緩和する薬物療法(支持療法)を併用する必要があります。

講演の合間には熊大医学部アンサンブル部の学生による演奏会及び熊本シティオペラのソプラノ歌手によるミニコンサートもありました。

約五五〇人の来場者があり、講演終了後の総合討論では、講演者全員が登壇し、あらかじめ寄せられた質問と会場からの質問に講演者が答える形で行いました。内容を、三月十六日の新聞紙面に掲載しました。

常任理事(事業担当) 遠藤 文夫

**総合生活情報紙「あれんじ」の健康・医学・医療・学術記事の執筆・監修**

熊本日日新聞社が第一土曜日と第三土曜日とに発行するタブロイド版十六頁の総合情報紙「あれんじ」(各三十五万部発行)の十面と十一面の見開き二頁について肥後医育振興会が執筆・監修を行い、医療・医学並びに医学に隣接した学問分野の学術情報を県民に提供しました。第一土曜日発行のものでは、「元気の処方箋」というタイトルの下で、熊本大学生

命科学研究部医学系並びに医学部附属病院の教授・准教授が中心となって最新の医学医療記事を執筆しました。おおよそ三千字の本文に五、六個の図表が備わった規模のものになりました。また、十面最下段には、「子育て応援クリニック」というタイトルの下で小児科関連の医学医療記事を医学部附属病院小児科の中村公俊講師に執筆してもらいました。また、十一面最下段のリレーエッセイ「慈愛の心医心伝心」では、女性医師を中心とした十二名の女性医療人に、日ごろの医療への想いや体験談を暖かい筆致で書いてもらいました。一方、第三土曜日発行分

に関しては、「熊遊学ツアーリズム」と題した幅広い周辺科学の学術情報を、熊本大学の理学部や文学部などの教授や准教授からインタビュー形式で提供してもらい、放送作家の宮崎真由美さんが記事にするという形式で掲載しました。その際の十面の最下段には、俳句欄「四季の風」を設け、俳誌「阿蘇」主宰者で熊本大学大学院社会文化科学研究科長でもある岩岡中正教授に、季節ごとの俳句の紹介と解説記事を書いていただきました。

また十一面最下段の熊本の伝統行事を扱った「熊本まつり探訪」では、熊本各地の祭りを十二取り上げ紹介しました。その際、祭りのいわれや意味について熊本大学大学院社会文化科学研究科民俗学の安田宗生氏に解説を添えていただきました。以下に「元気の処方箋」と「熊遊学ツアーリズム」のテーマを記録しておきます。

四―一 「ヒマン」のひみつ く神様は「肥満」を想定していませんか？

四―三 「超伝導」って、何？

- 五―一 子宮頸がん予防ワクチンと人類史上初のがん予防ワクチン
- 五―三 疲労を取ろうと病気を防ぐ第一歩
- 六―一 低侵襲治療(IVR)と外科手術と同等の効果をより小さな負担で得る
- 六―三 「エアロゾル」の不思議
- 七―一 変貌しつつある関節リウマチの治療とメトトレキサートと生物学的製剤
- 七―三 「シダ植物」のフシギ
- 八―一 「CKD」(慢性腎臓病)にご注意!
- 八―三 「比較文学」って面白い
- 九―一 太りにくい体になる有酸素運動と「筋トレ」で
- 九―三 目からウロコの「確率論」
- 十―一 脳腫瘍の最新治療
- 十―三 「固体科学」入門
- 十一―一 正しく知りたい「認知症」
- 十一―三 「地球環境科学」を科学する?
- 十二―一 生殖補助医療はいま
- 十二―三 「ブラックホール」は謎だらけ
- 一―一 まずは元気な「くまもと」へ
- 一―二〇一一年 熊本医療・健康トピックス
- 一―三 「フランス文学」の楽しみ方
- 二―一 知ってほしいCOPD(慢性閉塞性肺疾患)と呼吸リハビリテーション
- 二―三 RNALネットサンス!
- 三―一 本人も周囲も上手に付き合いたい「老人性難聴」
- 三―三 化学がひも解く地球史

常任理事(庶務担当) 山本 哲郎